

「かなさんどー、沖縄」

沖縄県立首里高等学校 1年生 荒木 里菜

毎年、多くの観光客でにぎわうここ沖縄。首里城や玉陵（たまうどぅん）などの世界遺産、青い海、白い砂浜、色鮮やかなサンゴ礁、温かい気候は、観光客の胸を躍らせます。首里城や国際通りなど、那覇市内を周遊する人。もう少し行動範囲を広げ、美ら海水族館やリゾートホテルが多い北部一帯を周る人…。沖縄観光のスタイルは人によって様々です。そんな観光の地“沖縄”で、観光客が気持ちよく滞在し、そしてリピーターとして再び沖縄を訪れてくれるためには何が必要なのでしょうか？

その一つに、沖縄の公共交通機関を充実することが挙げられます。沖縄は、ゆったりとした時の流れの中で歩く人、（あっちゃー）が多いと思われがちです。でも、実際はどうでしょう？バスやモノレールがめざましい発展を遂げ、公共交通機関が豊かになってきている一方で、現在の沖縄県は“クルマ社会”と言われるほど、なんでも自動車に頼る人が増えてきています。確かに、クルマは便利で自由な乗り物ですが、交通渋滞、交通事故、違法駐車、排気ガスなど、いろいろな社会問題を引き起こす原因の一つとなってしまうのです。

最近、私がバスを利用した際に、こんな出来事がありました。四月に行われた、新入生歓迎球技大会の帰り。混雑するバスの車内に入ると、一人のおばあさんが私の目を見ながらこう話したのです。

「私が学生だった頃は、観光客でバスはいつもこんな感じだったから、なんだか久しぶりだわ。でも、クルマが増えてからは、そんなこともなくなって、ガラガラのバスはすごくさびしいな…。」

おばあさんのどこか寂しげな顔は、私の頭の中から離れませんでした。

“クルマ社会”になった沖縄県には、おばあさんのような意見を持つ人も少なくはありません。私も、そのうちの一人です。”クルマ社会“を見直すことで、もっと観光客に優しい沖縄を作っていきませんか？

沖縄は離島であるため、他の地域のように道路や鉄道で直接訪れることはできません。従って、観光客はおのずと飛行機や船で訪れることとなります。そのため、観光客が移動するには、島内の交通機関を利用する他に手段はありま

せん。

沖縄県の調査では、外国人観光客が観光バス、タクシー、モノレールなどを利用する割合が高いのに対し、日本人観光客は圧倒的にレンタカーの利用が多いようです。これに地元沖縄の人々のマイカーが重なり、観光地や町中にはクルマが溢れかえっています。こんな“クルマ社会”化した沖縄を訪れ、観光客は「もう一度来たい！」という気持ちになるのでしょうか？

このような状況の中、沖縄県ではもっと観光客に優しいまちをつくるために取り組んでいることがあります。

昨年の六月、那覇市内の観光地を周遊するバス“ゆいゆい号”の運行が開始しました。このバスに乗れば、那覇の魅力を自らの目で感じる事ができ、観光客にはもってこいのバスです。もちろん、那覇市内を周る際に駐車場探しや渋滞に悩まされる心配は一切ありません。時間を気にせずに那覇を観光できます。さらに、バスモノパスというパスポートを使用すれば、沖縄バスとモノレールが一日乗り放題になるのです。

このような取り組みで、沖縄観光と公共交通機関のつながりがどんどん強くなっていくでしょう。でも、これだけではまだ物足りない気がします。

私がイメージする、沖縄観光のあり方。それは、非日常生活を目いっぱい体感することです。

せっかく沖縄へ来たのに、交通渋滞や駐車場待ちで時間を無駄にするのはもったいないことです。限られた日数しか滞在しない観光客だからこそ、効率よく移動することで時間にゆとりができれば、気分よく沖縄の伝統、文化、気候などに触れることができます。これなら普段の生活を忘れて沖縄観光を充分満喫してもらえenと思います。そのためには、観光客にも利用しやすい公共交通機関の整備が必要となります。

公共交通機関は、今日も県内各地を結んで動いています。今後は県民の足としてだけでなく、観光にも便利な公共交通機関として発展することで、沖縄観光がより魅力的になると思います。

国際色豊かな沖縄ならではの公共交通機関とすることで、ワンランク上の“観光立県沖縄”を目指しましょう。

沖縄観光の将来は、公共交通機関とともに。

かなさんどー、沖縄。ちばりよー、沖縄。